

保育者を目指す学生が考える表現に必要なスキルについて

—保育表現技術演習での音楽劇鑑賞から—

About the skills necessary for expression that students who aim to become childcare:
From watching musical plays in childcare expression skills exercises

三上伸和（声楽家/青森県立青森工業高等学校）

林 麻由美（東京福祉大学短期大学部）

Nobukazu MIKAMI(Singer/Aomori Technical High School)

Mayumi HAYASHI(Tokyo University of Social Welfare Junior college)

（キーワード）

音楽、身体表現、言葉、音楽劇、保育表現技術

1.はじめに

保育園、幼稚園現場において子どもたちは様々な表現の姿を見せる。なかでもお遊戯会などの園行事においては、園児の表現を支えるために保育者自身が感性を豊かにするとともに、知識・技能・表現力を身につけなければならない。そのために保育者を目指す学生は、様々な表現に必要なスキルとは何かを考え、習得していくことが重要であると考え。しかし今日のコロナ禍において、表現の実践発表を行うことは難しく、そもそも実践発表を実施していない学校も見受けられる。

そこで学生達に保育者を目指す別の養成校の学生が取り組んだ音楽劇を鑑賞してもらい、次に、その演出者であるオペラ歌手による「表現に必要なワークショップ」も体感してもらった。学生達が表現者として必要なスキルや保育者に求められる表現力について自ら考え、さらにそれらを身につけることを学生自身が日常の中で心がけていくことの必要性を実感することが必要だと考えた。

2.目的

本発表では、「保育表現技術演習」授業において、保育者を目指す学生に表現に必要なスキルを理解してもらうとともに、舞台のプロであるオペラ歌手から表現者に必要なトレーニング

方法を学び、日常に意識して取り組んでもらうことで、個々の表現力を向上させることを目的とする。

3.方法(授業内容)

(1)音楽劇について

T 大学短期大学部 2 年生の学生(参加学生 27 名)を対象として「保育表現技術演習」授業内で、音楽劇とは何か？また、保育内容（表現）の考え方に基づく音楽劇とはどのようなものか？さらに、音楽劇を作るための役割分担や完成までの手順について「年間授業計画」を用いて説明を行った。その他、舞台構成案、台本案、セリフ案、衣装案、舞台セット案、小道具案等を資料として取り上げ講義を行った。

(2)音楽劇 DVD 鑑賞

保育者養成校である A 短期大学の学生による表現研究発表会での音楽劇「ブレーメンのおんがくたい」を鑑賞し、表現に必要なスキルについて考える時間を取った。

(3)音楽劇ワークショップ

音楽劇の中で見られた様々な表現に必要なスキルのワークショップを学生全員で行った。

①セリフ、うた

- ・声をしっかり出す、言葉をはっきり伝えるための腹式呼吸の実践。
- ・声(歌声)が遠くまで届くための喉のトレー

ニング方法について。

- ・声や顔に表情をつける表情筋のトレーニング方法について。

②演技、振付

- ・アクションを大きく見せる方法について。
- ・喜怒哀楽を全身で表現する方法について。
- ・目線や立ち姿、舞台所作について。
- ・エネルギーとテンションの必要性。

4.アンケートの内容について

授業終了後、参加学生に以下のアンケートを実施した。

- (1)音楽劇を視聴し、表現者として必要なスキル(複数可)をどのようにとらえたか？
- (2)音楽劇の視聴、ワークショップを経験し、あなたは保育者としてこれから表現力を身につけるため、日常的にどのようなことを心がけていきますか？

5.結果

学生のアンケート回答は以下のような結果であった。(回答学生は23名)

アンケート(1)表現者として必要なスキルについて最も多かったワードが、「表情」13名、「体」16名、「声」17名、「言葉」12名、という結果であった。「表情」では、役になり切った顔の表情(喜怒哀楽)の豊かさ、「体」では、身振り手振りをつけるなど全身を使って大きく見せるための工夫、「声」はしっかり出し、聞こえるようにはっきりセリフや歌を歌うこと、「言葉」では、子どもが理解しやすいように簡単に楽しめる言葉や役に合わせた言葉を使い、言葉の抑揚の工夫などが必要であることが挙げられた。

アンケート(2)日常的にどのようなことを心がけるかの問いには、「表情豊かな表現」(身体表現、言語表現)、「子どもに伝わりやすい声」(腹式呼吸、滑舌)、「雰囲気作り(楽しい雰囲気、明るい雰囲気)」、「読み聞かせ、手遊び、歌唱、ピアノなどの技術(練習を積む)」、「保育者も感受

性を豊かにするような経験をする(五感を刺激する)」といった意見が挙げられた。

6.授業を実施した感想

アンケート結果から学生達が表現力を養うために日常から意識して取り組んでいく熱意が感じ取られた。今後は絵本や紙芝居などの読み聞かせ、手遊びや歌、ピアノ演奏の中でも表現力を工夫して取り入れていくことが望まれる。

ワークショップでは、学生は演習に対し恥ずかしがることなくとても積極的に取り組む姿勢が見受けられた。また最後まで笑顔を保ちながら学んでいたことも印象深く、何か一つでも吸収しようという意気込みが感じられた。

7.まとめ

子どもは自分なりの方法で様々な表現をする。子どもの表現を否定することなく、想いを受け止め、更に表現することの楽しさを引き出すためには、保育者自身が表現者であることが最も大切なことであると考えられる。保育者をめざす学生は、表現に必要なスキルを理解した上で、その習得に向けて授業や日常生活の中で意識を持ちながら継続していくことが重要であると再認識したことがわかった。

8.課題

コロナ禍においては、表現の実践発表を行うことは難しい。従って授業内で様々な表現のスキル演習を重ねることが理想である。指導を専門家に依頼するのであれば「表現のスキル」と「ワークショップ」というように2回に分けて行うことが、より学生が深く学べるという点では望ましい。

今回は、表現に必要なスキルを習得するためのワークショップに焦点を当てた発表を行っていききたい。